

世界

綿花見通

綿花価格、高値のまま推移---2011/12

国際綿花諮問委員会（ICAC）によると、2011/12年度の世界の綿花生産は、前年比 12% 増の 2,740 万トンとなる見込み。ほぼ全ての綿花生産国において作付面積が拡大する見通しが背景にあるが、2010/11 年度の綿花価格が倍増したことを考えると、この生産量の伸び幅は小さいと言える。綿花生産が伸び悩んでいる背景には、農作物との競合に加え、土地、種子、水、設備などを含む資源不足がある。生産は増加するものの、高騰する価格や化学繊維との競合によりミル消費の増加は 3%にとどまる見通し。

生産がミル消費を 180 万トンほど上回るため、2011/12 年度の期末在庫は 1,010 万トンと予測される。2011/12 年度の在庫率（在庫/消費）は前年度の 33%から 40%に上昇するものの、至近 10 年の平均である 50%を大きく下回っている。

ICAC 価格モデルで試算すると、2011/12 年度の Cotlook A インデックス（綿花価格の指標）の平均価格は 1.38 ドルとなる見通しである。これは前年度の予想平均価格 1.62 ドルから 15%低下するが、至近 10 年（2000/01～2009/10 年度）の平均である 60 ㉔を大きく上回っている。ただし、商品市場全般に不安定な状態にあり、注意を要する。

ICAC 価格モデルは、不完全な情報から得られた仮予測に導かれた限られた説明変数によるものにすぎない。

世界の綿花需給見通し

(100 万トン)

	2009/10	2010/11	2011/12
生産	21.9	24.5	27.4
消費	24.6	24.8	25.6
輸出	7.8	8.3	8.5
期末在庫	8.7	8.3	10.1
価格*	78	162	138

*Cotlook A インデックス（㉔/ポンド）

世界

合繊投資

ポリエステル設備拡大と製品開発

中国化繊情報網によると、近年、中国のポリエステル繊維および川中

部門の生産能力の拡大の勢いは衰えていないという。

2008年には、新規にポリエステル生産ラインが11ライン増加、新規の増設能力は年産179万トンとなった。その結果、2008年末の中国のポリエステルの生産能力は2,492万トンとなった。2009年には5~6の新プラントが稼働を開始、年産約100万トンの生産能力が増加した。

そして、2010年には、新規にポリエステル生産能力は年産245万トンが増加した。この中には、江蘇盛虹化繊の20万トン/年プラントのほか8ラインの稼働開始が含まれる。そのうち5ライン(165万トン)は繊維向け、4ライン(80万トン/年)はPETボトル用チップ向けである。

市場関係者によると、中国の繊維市場および飲料水市場の内需が急速に成長していることから、2010-2011年の設備能力増加は、価格に影響を及ぼす可能性は少なく、供給過剰にならないと楽観的にみる向きが多い。中国の2010年の炭酸飲料水市場の成長率は10%、繊維製品市場の成長率も10%以上と見込まれるため、新規のPETボトルの生産能力、繊維用ポリエステルの生産能力増加も容易に市場に吸収されるとみられている。

一方で、2010~2011年以降の中国のポリエステルの増設については厳しい環境が予想されている。2011~13年に632万トンの新增設が計画されているが、労働コスト上昇(年間25-30%上昇)、原油価格の上昇、人民元レートの上昇、国内ポリエステル企業の開発力の弱さなどから、資金力が弱く、製品開発力のない中小企業により大きなリスクがあるとみられている。

中国の主要なポリエステルメーカーの新增設計画(万トン)

企業	地区	現有能力	新增設	用途	投資開始時期
三房港	江蘇	-	20	PET	2010年
盛宏化繊	江蘇	60	20	長繊維	2010年6月
宜興華業	江蘇	20	40	長繊維	2010年6月
浙江新風鳴	浙江	50	25	長繊維	2010年8月
万凱新材料	浙江	0	25	PET	2010年8-9月
常州市華潤	江蘇	47	20	PET	2010年8月
肅山栄盛	浙江	60	40	長繊維	2010年8月
遠東化繊	上海	60	15	PET	
倪家港	江蘇	-	2	短繊維	2010年改造
泰安新泰紡織	山東	-	10	短繊維	2010年
浙江通坤	浙江	120	40	長繊維	2010年末
新民科技	江蘇		20	差別化	2011年

				長繊維	
恒力集団	江蘇	-	40	PET	2011年
台湾遠東	上海	-	70	ポリエステル	2012年
上海公司	上海	50	50	PET	2013年
華潤化工	常州	-	100	チップ	2011-2013年
万凱新材料	浙江	25	70	PET	不明

米 国

繊維業況

欧米アパレル各社、中米生産へシフトの動き

欧米アパレル企業には、アジアが生産拠点としての問題が顕在化する中、生産の一部を中米に戻す動きが増えている。グアテマラのジーンズメーカーDenimatrixは、新たに欧米企業3社から受注したことを明らかにした。同社はJC Penny、Aeropostale、Hugo Boss、Ripleyなどの製品を生産しているが、同社によると、米国の顧客が一度アジアに生産を移した後、再び中米に戻ってくるケースや、欧州の顧客が今後の発注先として中米を調査する動きがあるという。

また、欧米の小売各社は、アジアでの生産問題や高騰する原料価格を受けて、商品調達先として、中米へのシフトに前向きであるという。

こうした中米シフトの背景には、中国を筆頭にバングラデシュ、ベトナムなどのアジア新興国の賃金上昇による製造コストの上昇、綿花価格の高騰などがある。また、中国が急成長する内需対応を重視し始め、輸出向けは欠品や納期遅延が発生するという懸念も生じている。こうした状況は既にインド及びパキスタンでも見られているという。このため、アジア生産に対して、新学期商戦や休暇商戦に向けた量産対応が難しく、納期遅延が懸念されている。特に中国を取り巻く最近の環境は最低賃金の20%引き上げ、人民元切上げ、原油価格の高騰などにより中国生産がもはや安価でないことも示している。

それに対して、中米生産は低コストというわけではないが、市場との近さという点において優位性がある。中国から調達する場合、距離が離れているため三か月分の在庫を抱えないといけませんが、中米から買う場合はその15%の在庫ですみ、15日おきに在庫を回転できる。つまり、小売業者は中国で年4回のところを中米では年20回にわけて在庫を補充できるなどQR対応が可能のほか、在庫を最小限にできる。さらに、小売各社が中米に注目する背景には、ドミニカ共和国-北米間の自由貿易協定(DR-CAFTA)のもと対米衣類輸出に免税措置を受けられることがある。小売各社は移管先の候補として、DR-CAFTA締結国のグアテマラ、

エルサルバドル、ニカラグア、コスタリカ、ドミニカ共和国、ホンデュラスなどを挙げている。

大手小売の Walmart は中米への移管を前向きに検討中、Aeropostale は海外での生産体制を見直し中であると伝えられている。JC Penny は、香港資本のフルパッケージ型商社利豊（Li&Fong）に対して、中米地域での商品調達ルートを確立することが可能かどうか、確認しているという。Macy's、Target、Levis など中米からの商品調達の拡大を検討中であると伝えられている。

Escada、Inditex（Zara）、Mango などの欧州企業も中米での生産拡大を検討しているが、米国企業に比べると、欧州市場への商品調達の必要性は低く、むしろ、拡大する中南米需要に対応するという観点から中米生産に注目しているという。また、2010年3月、EU は中米6カ国（コスタリカ、エルサルバドル、グアテマラ、ホンデュラス、ニカラグア、パナマ）と FTA に仮署名しており、発効後は、中米から欧州への繊維品輸出は2倍に増加すると期待されている。